サービスラーニングで得られた考え方

活動先：NPO 法人　あかり
クラス：末盛　慶　先生

1．自分の成長と気付き

このサービスラーニングに取り組む前までは、私は過去にボランティアなど福祉経験をあまりしてこなかった。しかも福祉に関心があると行っても現場での知識をアルバイトで積んでいる周りの友人に比べると福祉関連の現場での知識は全くと言っていいほどなかった。そのため、自分ではじめから企画してそれを施設の利用者に体験してもらうなどということは容易に想像できず、同じグループの人に迷惑がかかることや活動先の方に失礼になるのではないかということばかりが気になり、目的を達成することよりも不安の方が圧倒的に大きかった。

そんな不安ななかで事前訪問やあかりで毎年開催されるという感謝まつりの実行委員として会議に出席していくうちに、自分が今までどれほど福祉的な経験をしてきたかということよりも、現場を知らないなりにこれから学べることを吸収して、その現場にいる人達と一緒に考えていくことの方が求められているのだとわかった。活動先の方々は「学生のユニークな発想を期待している」と何度か私達に言われており、それが最初はプレッシャーに感じどうしようか迷っていたが、逆にこれこそ福祉のことをほとんど知らない私が福祉の現場で力を発揮できるチャンスなのかもしれないと思った。「地域との連携」や、「利用者主体」を講義のなかで理論として学び、はじめから活用すべきかとも考えたが、それでは実際に福祉現場で働いている方々と実践している内容と変わらない上に、最初からその目的だけを掲げて企画を練ることは、活動先の方々は求めていないのではないかと思った。

そして活動期間中は活動前に自分が思い描いていたものをうまく実行することの難しさや、さまざまな場面から出てくる疑問について解決していくことの困難を一週間の間だったが肌で感じられたと思う。デイサービスで自分の考えた企画を順序通りに進めてもらおうと思っても、利用者の方々に何と声かけをしたらわかりやすく失礼がないかなど、色々なことで悩んでいた。まず利用者の方が日常の生活をどのように過ごし、どんなことで支障を感じているのかということを、職員の方とのやり取りなどである程度把握しなければならなかった。障害について詳しくは聞けずわからないところもあったが、職員の方々と会話やスキンシップをとっているところを見ながら、職員の方が関わっていない時に自分たちがどのように接すれば良いのかなどを毎日曜日ごとに変わる利用者の方とのコミュニケーションをするとき常に考えるようにした。

サービスラーニングは夏期休業中の活動だけにとどまらず、クラスごとにその内容を発表し合ったり最後の報告会に向けて、自分たちの活動で起きたジレンマケースについて考えたりしながら自分が企画した活動がどうすればもっと良いものになったかを考察していく作業も行った。そのような作業のなかで私は、活動前に昨年サービスラーニングを経験

しアドバイスを頂いた先輩方の話を思い出した。先輩方の話では、「わからないことがあったら直接職員の方に聞くよう心がける」という内容が多かった。私達の活動でもわからないことを職員の方に直接聞けず解決できないまま過ごしてしまった後悔があるので、先輩方からそのようなアドバイスを頂けた意味が分かった気がした。

一年間のこの活動を通して、私は実習に向けての意識が高まったというよりは、仲間と自分の考えを共有しあらゆる問題に対して「この場合はどうなのか」という意見を交わしたり、活動先の方とともに日々の生活状況に応じて作業を手分けしたりしていく手順やその場にいるからこそ持てる考え方が備わったように思う。講義で現場の状況を教わっているだけでは、ぶつかった困難に仲間と一緒に解決し合う技術は身に付かなかっただろう。このようなさまざまな点から，一年間のサービスラーニングでは自分なりの考え方や意識に成長を感じることができたと考える。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

私が活動を行った NPO では、やはり経済的な面でも困難を抱えているように見受けられた。介護保険制度の活用や正会員の少なさにも問題があると職員の方は話をされていた。しかしそれは、一つの NPO のまとまりだけで個々に解決できる問題ではなく、さまざまなところの NPO が工面しており共通の問題であると言える。行政にもっと意見や要望を通すようにできることが一番だと考えるが、それは NPO だけが声を上げてもあまり効果はないと感じる。よく「地域連携」と聞くが、まさにこのことではないかと思った。地域のなかに存在する NPO が地域住民に理解してもらえなければ始まらない。しかしそのためには、NPO が実際に行っている活動やこれからの社会で住民通しが助け合うことの大切さを、住民の一人一人が考えていかなければ理解は得られないと思う。

現在社会問題となっている孤立死などの問題が他人事ではなく自分や友人のこととしておき変えて考えてみることをまず始めに提案する。具体的には、郵便受けに入れられる回覧板を、ただ資料を挟み読了のサインをつけるだけの形式にしないというものだ。例えば社会問題を簡単に噛み砕いたかたちでクイズ形式などにして関心を持ってもらい、さらに独居の方を中心として本人がきちんと存在している証として自筆で解いてもらう。そしてその解答を地域で開かれる町内会で発表し、その場で社会問題について考えるとともに個人の考えを聞いてニーズを把握していくという流れである。全ての住民が社会問題から NPO の重要性にまでつながっていかないにしても、現在おかれている問題を見つめ直し考えるきっかけにはなるのではないかと考える。